

各位

会社名 高橋カーテンウォール工業株式会社
 代表者名 取締役社長 高橋 武治
 (JASDAQ・コード1994)
 問合せ先
 役職・氏名 取締役管理部長 影山信博
 電話 03-3271-1711

平成18年12月期中間(連結・単独)業績予想との差異及び 通期(連結・単独)業績予想の修正、並びに特別損失の発生に 関するお知らせ

平成18年12月期(平成18年1月1日～平成18年12月31日)の業績予想について、平成18年2月27日付当社「平成17年12月期決算短信(連結)」及び同日付当社「平成17年12月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正し、並びに特別損失の発生をお知らせします。

1. 平成18年12月期連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成18年1月1日～平成18年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	5,000	△115	△130
今回修正(B)	4,920	△145	△150
増減額(B-A)	△80	△30	△20
増減率	△1.6%	—	—

(2) 通期(平成18年1月1日～平成18年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	13,500	135	20
今回修正(B)	13,300	70	△100
増減額(B-A)	△200	△65	△120
増減率	△1.5%	△48.1%	—

(3) 修正理由

- ① 中間期の売上高は計画を若干下廻る49億200万円となる見込みですが、損益面では建設工事での天候が原因の工期短縮によるコストアップ等によって、経常利益は計画を30百万円下廻る△1億45百万円に、中間純利益も上記理由を受けて計画を20百万円下廻る△1億50百万円となる見込みです。
- ② 通期の売上高も計画を若干下廻る133億円となる見込みですが、損益面では中間期でのコストアップの影響と下半期に予定していた都市型タラソテラピー施設の開設時期遅延による収益額減少により、経常利益70百万円、当期純利益△1億円となる見込みです。

(4) ご参考：前期の連結実績（平成17年1月1日～平成17年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(1/1～6/30)	5,102	△268	△883
通期(1/1～12/31)	10,808	△287	△948

2. 平成18年12月期単独業績予想の修正等

(1) 中間期（平成18年1月1日～平成18年6月30日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	2,500	△25	△100
今回修正 (B)	2,540	25	△90
増減額 (B-A)	40	50	10
増減率	1.6%	—	—

(2) 通期（平成18年1月1日～平成18年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	7,100	240	40
今回修正 (B)	7,200	300	△50
増減額 (B-A)	100	60	△90
増減率	1.4%	25.0%	—

(3) 修正理由

- ① 中間期の売上高は計画通り25億円を確保できる見込みであり、経常利益は一部受注単価の引き上げ効果と有価証券売却益の増加により、計画を50百万円上廻ってマイナスから25百万円のプラスに、中間純利益は上記理由を受けて計画から10百万円マイナス圧縮の△90百万円となる見込みです。
- ② 通期の売上高は72億円と概ね計画通りに推移する見込みであり、経常利益も中間期での受注単価引き上げ効果等を受けて当初計画を上廻る3億円となる見込みですが、当期純利益は子会社の損失引当負担が増えて△50百万円となる見込みです。

(4) ご参考：前期の実績（平成17年1月1日～平成17年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(1/1～6/30)	3,962	△87	△820
通期(1/1～12/31)	6,853	15	△927

3. 特別損失の発生

平成18年12月期中間期において、連結子会社に対する貸付金にかかる1億11百万円の引当負担が特別損失として発生する見込みです。

なお、当引当負担の連結業績への影響はありません。

以上